

SOKENDAI

(The Graduate University for Advanced Studies)

School of Cultural and Social Studies

Department of Regional Studies

Department of Comparative Studies

Overview '19

総合研究大学院大学 文化科学研究科

地域文化学専攻

比較文化学専攻

概要 '19



S O K E N D A I 国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



国立民族学博物館（みんぱく）は、博物館機能と博士課程の大学院教育機能を備えた文化人類学・民族学の研究センターとして、世界で唯一の存在です。みんぱくには、このほかにもいくつもの「世界一」の性格が備わっています。みんぱくは現在、世界各地から集めた34万5000点の民族学標本資料を収蔵していますが、このコレクションは、20世紀後半以降に築かれた民族学関係の資料としては世界最大の規模をもちます。また、施設の規模のうえでは、世界最大の民族学博物館となっています。さらに世界全体をカバーするコレクション、展示、蔵書、そして研究部と研究者の陣容をもつ研究所としても、みんぱくはアジアで唯一の機関ということになります。みんぱくには、現在、51人の研究者、つまり、教授、准教授、助教がいますが、みんぱくの研究者は、日々、世界各地でフィールドワークに従事し、人類の営みの多様性と共通性を明らかにするとともに、その作業の中から、世界の未来の姿にむけての指針を示そうと力を注いでいます。

人類の文明は、今、数百年来の大きな転換点を迎えているように思います。これまでの、中心とされてきた側が周縁と規定されてきた側を一方向的にまなごし、支配するという力関係が変質し、従来、それぞれ中心、周縁とされてきた人間集団の間に、創造的なものも破壊的なものも含めて、双方向的な接触と交流・交錯が至る所で起こるようになってきています。それだけに、異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界の構築をめざす文化人類学の知が、これまでになく求められているように思われます。

みんぱくには、総合研究大学院大学の地域文化学専攻と比較文化学専攻が設置されています。この両専攻に所属する大学院生は、文化人類学をはじめ言語学、宗教学、生態学、先史学、芸術学、民族音楽学そして博物館学など、広範な研究領域を専門とする個性ゆたかな教授陣の指導を受けられるのみならず、上で述べた世界に冠たる資料の蓄積に身近に接することができます。みなさんが、これらの学術資源を縦横に使いこなし、新たな研究の領野を切り開いて、それぞれの分野のパイオニアとしてはばたいて行かれることを期待しています。

国立民族学博物館長 吉田 憲司

充実した教授陣

学生数をうわまわる教授陣は、学生一人一人の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また両専攻の教員は各分野の第一線で活躍する研究者であるため、最新の研究動向に基づいた指導をおこなうことができます。

豊富な情報源

日本における文化人類学・民族学関連の最大の資料類が揃っています。

また、国立民族学博物館が主催する数多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通して、国内外の優秀な研究者との交流ができます。

各種の支援制度

リサーチ・アシスタント制度、インターンシップ制度、授業料免除制度、学会発表やフィールドワークの旅費の援助など、充実した研究支援が受けられます。

指導体制

個別指導と共同指導を組み合わせたユニークな指導体制を採用しています。学生には正副2名の指導教員が指名され、入学から学位取得まで、日常的な指導をおこないます。一方、ゼミにおいては共同指導体制を取り入れています。ゼミは各4名の教員が担当し、研究の内容だけでなく発表方法などに関する指導をおこないます。担当教員以外の教員にもゼミへの参加を求めることができます。

スケジュール

学生は1年次において1年生ゼミでの指導のもとにフィールドワーク（現地調査）の準備をおこない、2年次以降、指導教員の指導のもとに調査地にてフィールドワークをおこないます。そして調査終了後、指導教員による個別指導や論文ゼミでの共同指導を受けながら学位論文の完成をめざします。

専攻案内

地域文化学専攻

独創的な文化人類学・民族学を目指して

本専攻は、国立民族学博物館が基盤機関となり、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ及びオセアニアの諸地域に居住する人びとの文化と社会に関する教育研究を行っています。各々の地域の特性や歴史を考慮しながら、民族誌学的方法論に基づく文化と社会の記述、構造の解明、動態の把握を目指します。現地調査から得られたデータを分析し、理論化し、学術的な貢献と実践的な提言ができる人材を養成します。



榎永 真佐夫 専攻長

比較文化学専攻

比較研究を通じて文化の諸現象を解明

本専攻は、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野から構成されています。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。基盤機関である国立民族学博物館の標本資料や映像音響資料、文献図書資料等を教育と研究に活かせることは本専攻の強みです。従来の文化人類学的研究方法に加えて、隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究分野の開発を積極的に進めることができる人材を養成します。



宇田川 妙子 専攻長

地域文化学専攻 (2019年度)

相島 葉月 准教授

① 社会人類学・イスラーム学・中東研究

- ② 現代エジプトにおける美と身体文化に関する社会人類学的研究
日本と中東に関する文化的知識のグローバルな流通について
- ③ モダニティ、都市中流層、マスメディア、教育、現代イスラーム思想、消費、様式美、独創性、知的伝統

伊藤 敦規 准教授

① アメリカ先住民研究・博物館人類学・知的財産問題の人類学的研究

- ② 日本国内博物館等所蔵アメリカ先住民資料の協働管理に向けた調査研究
- ③ 米国先住民、博物館人類学

樫永 真佐夫 教授

① 東南アジア文化人類学

- ② 東南アジアの伝統的政治社会組織に関する歴史的研究
物質文化に焦点を当てた黒タイの民族誌的研究
ベトナムにおける国家と民族の関係に関する研究
- ③ 東南アジア大陸部、ベトナム、黒タイ、白タイ、タイ系言語集団、社会人類学

川瀬 慈 准教授

① 映像人類学・民族誌映画

- ② エチオピアの音楽職能集団の人類学的研究
民族誌映画制作の理論と実践に関する研究
アフリカの無形文化の保護と継承に資する映像人類学研究
人類学研究にもとづく創作的な話法の探求
- ③ 映像人類学、民族誌映画、エチオピア、音楽職能、Ethio-Jazz、エスノフィクション

齋藤 玲子 准教授

① アイヌ・北方先住民文化研究

- ② アイヌ文化の継承と社会的背景についての研究
北アジアおよび北アメリカ先住民の物質文化に関する研究
- ③ アイヌ、北方先住民、北海道、北アメリカ、物質文化、観光

奈良 雅史 准教授

① 文化人類学・中国研究

- ② 中国における宗教と少数民族をめぐる人類学的研究
宗教と移動をめぐる人類学的研究
- ③ 宗教実践、国家、自律性、公共性、移動、エスニシティ、ムスリム、回族

池谷 和信 教授

① 環境人類学・人文地理学・アフリカ研究・地球学

- ② 熱帯の狩猟採集文化、家畜飼育文化の変容に関する比較研究
南部アフリカにおける先住民運動に関する研究
地球環境史の構築に関する研究
- ③ 地球環境、狩猟採集民、アフリカ、東北アジア、サン(ブッシュマン)、ソマリ、チュクチ、日本、バングラデシュ、環境人類学、人文地理学

小野 林太郎 准教授

① 海洋考古学・東南アジア研究・オセアニア考古学

- ② 熱帯島嶼域における人類史や資源利用史に関する考古学研究
漁撈や海の利用にかかわる人類・考古学的研究
水中文化遺産を対象とした海洋考古学的研究
- ③ 東南アジア島嶼部、インドネシア、オセアニア、オーストロネシア語族、漁撈、水中文化遺産、人類史

河合 洋尚 准教授

① 社会人類学・漢族研究

- ② 空間、景観、フードスケープをめぐる人類学的研究
中国漢族地域における都市景観開発と文化遺産保護の研究
環太平洋の客家に関するマルチサイト民族誌
- ③ 景観、風水、都市、コミュニティ、漢族、客家

齋藤 晃 教授

① 歴史人類学・ラテンアメリカ研究

- ② 植民地期アンデスにおける先住民の総集住化に関する国際共同研究
近世カトリックの世界宣教と文化適応に関する共同研究
- ③ ラテンアメリカ、植民地時代、先住民、文化人類学、エスノヒストリー

新免 光比呂 准教授

① 宗教学・東欧研究

- ② ファシズム運動における宗教的要因の比較研究
- ③ ルーマニア、ファシズム、レジオナル、キリスト教

西尾 哲夫 教授 (2023年3月退任予定)

① 言語人類学・アラブ研究

- ② グローバル化と中東地域の民衆文化に関する言語人類学的研究
多角的価値共創文学の可能性に関する物語情報学研究
- ③ 中東、北アフリカ、アラビアンナイト、ナラトロジー

丹羽 典生 准教授

① 社会人類学・オセアニア地域研究

- ② オセアニアにおける紛争と少数民族に関する研究
応援に関する通文化比較
- ③ 宗教運動、紛争、開発、少数民族、応援

信田 敏宏 教授

① 社会人類学・東南アジア研究

- ② 東南アジアの文化に関する人類学的研究
インクルーシブ社会に関する人類学的研究
- ③ 東南アジア、マレーシア、オラン・アスリ、日本、博物館、知的障害者

平井 京之介 教授

① 社会人類学・日本研究・東南アジア研究

- ② 水俣病被害者支援運動の人類学的研究
「負の遺産」の生成に関する博物館人類学的研究
タイのコミュニティ博物館についての人類学的研究
- ③ 日本、タイ、ラオス、経済人類学、社会運動、博物館、上座部仏教、水俣病

三尾 稔 教授

① 文化人類学・南アジア研究

- ② 南アジアにおける多様な宗教伝統の共生に関する研究
インドのナショナリズムと宗教の関係に関する研究
インドの大衆消費社会化と祭礼の変容に関する研究
- ③ ラージャスターン州メーワール地方(インド)、グジャラート州(インド)、ヒンドゥー、ムスリム、文化人類学、宗教人類学、南アジア地域研究

南 真木人 准教授

① 南アジア民族誌研究・文化人類学

- ② ネパール地震後の社会再編に関する研究
ネパール社会の30年間の変化に関する研究—1982年撮影番組の再資源化
- ③ ネパール地震、災害民族誌、包摂、社会再編、映像人類学、当事者コミュニティ、研究資源の共有化、ガンダルバ(楽師カースト)

山中 由里子 教授

① 比較文学比較文化

- ② 中東およびヨーロッパにおける驚異譚の比較文学的研究
驚異と怪異の比較研究
アレクサンドロス伝承の東西伝播
- ③ 西アジア、アラブ文学、ヘルシア文学、博物学、驚異、イラン、東西交渉史

野林 厚志 教授

① 人類学・民族考古学・台湾研究・食文化研究

- ② 生業技術の通文化比較研究
食の多角的価値に関する人類学的研究
台湾におけるエスニシティの動態の探究
- ③ 生業文化、食文化、物質文化、狩猟技術、野生動物、家畜動物、狩猟農耕民、台湾原住民族、エスニシティ、文化資源

林 勲男 教授 (2022年3月退任予定)

① 社会人類学・オセアニア研究

- ② 自然災害への対応に関する人類学的研究
オセアニアにおけるキリスト教宣教師の活動に関する研究
- ③ 災害、復興、記憶、宣教師、博物学誌、民族誌コレクション、オセアニア

藤本 透子 准教授

① 文化人類学・中央アジア地域研究

- ② 中央アジアにおけるイスラーム実践の人類学的研究
カザフの伝統医療に関する研究
カザフの移動と社会再編に関する研究
- ③ 中央アジア、カザフスタン、ムスリム、宗教実践、伝統医療、社会再編、移動

三島 禎子 准教授

① 文化人類学・西アフリカ研究

- ② 国際移動に関する文化人類学的研究
- ③ 西アフリカ、セネガル、ソニンケ、商業民族、民族ネットワーク

森 明子 教授 (2023年3月退任予定)

① 文化人類学・民族誌研究・ヨーロッパ人類学

- ② 人類学の記述とその社会的文脈
人類学的比較の再考
- ③ 都市、家族、国家、場所、社会的なもの

- ① 専門分野
- ② 現在の研究課題
- ③ 研究のキーワード

比較文化学専攻 (2019年度)

飯田 卓 教授

- ① 生態人類学・アフリカ地域研究・視覚メディアの人類学
- ② マダガスカルにおける漁民文化と漁撈技術
アフリカにおける文化遺産とコミュニティの相互影響
日本人類学の発達における大衆メディアの役割
- ③ インド洋、アフリカ大陸、日本、人類学史、文化遺産実践、大衆アカデミズム、情報と知

卯田 宗平 准教授

- ① 環境民俗学・東アジア研究
- ② 動物と人間とのかかわりをめぐる民俗学的研究
- ③ 自然と人間、動物利用、リバランス論、鵜飼文化、トナカイ飼養、物質文化、技術と技能

太田 心平 准教授

- ① 社会文化人類学・北東アジア研究・博物館組織行動論
- ② 韓国・朝鮮社会における文化の統合性と多様性の研究
労働現場としての博物館における組織行動と動機付け
- ③ 韓国・朝鮮、近代性、社会的記憶、物語論、世代集団、知識生成、博物館

菊澤 律子 准教授

- ① 言語学・オーストロネシア諸語・言語研究における地理情報システム(GIS)の利用
- ② オーストロネシア諸語における統語構造の変遷
言語データを軸としたオセアニアの先史に関する学際研究
手話言語と音声言語の対照研究
- ③ オセアニア、フィジー、オーストロネシア、記述言語学、比較(歴史)言語学、比較(歴史)統語論、先史言語学、手話言語学

菅瀬 晶子 准教授

- ① 文化人類学・中東地域研究
- ② パレスチナ・イスラエルを中心とした東地中海アラブ地域で、一神教徒が共有する聖者崇敬の研究
イスラエルにおけるアラブ人市民を中心とした、マイノリティによる文化表象のありかた
- ③ 中東、東地中海、パレスチナ、イスラエル、キリスト教徒、マイノリティ、アイデンティティ、エスニシティ、文化表象、共存

鈴木 紀 教授

- ① 開発人類学・ラテンアメリカ文化論
- ② 開発援助プロジェクトの人類学的評価法
博物館における先住民族文化表象
- ③ ラテンアメリカ、メキシコ、ユカタン、開発援助、フェアトレード、博物館展示学

上羽 陽子 准教授

- ① 民族芸術学・染織研究・手工芸研究
- ② 現代インドの手工芸文化に関する民族芸術学的研究
- ③ 民族芸術学、手工芸文化、染織研究、インド、伝統的技術

宇田川 妙子 教授

- ① 南ヨーロッパ研究・性研究
- ② イタリアおよび地中海ヨーロッパの民族誌的研究
ジェンダー/セクシュアリティに関する文化人類学的研究
社会理論の批判的再考
- ③ イタリア、地中海ヨーロッパ、イタリア人、文化人類学、ジェンダー/セクシュアリティ研究、南ヨーロッパ研究、性研究

韓 敏 教授

- ① 社会人類学・中国研究
- ② 歴史記憶と象徴に関する人類学的研究
- ③ 社会主義近代化、中国、文化遺産、観光、文化表象、記憶、聖地巡礼、英雄崇拜、漢族、シボ族

笹原 亮二 教授

- ① 民俗学・民俗芸能研究
- ② モノの遺存の総体的把握を通じた生活文化に関する民俗学的研究
- ③ 日本、民俗学、三匹獅子舞、民俗芸能

鈴木 七美 教授 (2023年3月退任予定)

- ① 歴史人類学・医療人類学・エイジング研究
- ② キルトドキュメンテーション活動—アーミッシュ・キルトから考える
米国での認知症高齢者を師とする人生語り・記録の多世代協働とコミュニティ教育の展開
- ③ エイジングフレンドリー・コミュニティ、米国宗教コミュニティ、アーミッシュ・キルト

關 雄二 教授 (2022年3月退任予定)

- ① アンデス考古学・ラテンアメリカ研究
- ② 古代アンデス文明における権力の発生に関する研究
ペルーにおける世界文化遺産概念と国家・地域の文化遺産概念との相互作用に関する研究
- ③ ペルー、ラテンアメリカ、メスティソ、アンデス考古学、文化人類学

園田 直子 教授

- ① 保存科学
- ② 博物館における持続可能な資料管理に関する研究
資料の展示・保存環境に関する研究
収蔵庫の再編成に関する研究
- ③ 保存科学、総合的有害生物管理(IPM)、博物館環境

寺田 吉孝 教授 (2020年3月退任予定)

- ① 民族音楽学・インド研究
- ② マイノリティと音楽
グローバル化と南インド古典音楽の変容
- ③ インド(タミル)、フィリピン(マラナオ、マギンダナオ)、アジアアメリカ、民族音楽学

日高 真吾 教授

- ① 保存科学・保存修復
- ② 地域文化の保存と活用に関する研究
博物館における保存処理法の研究
- ③ 日本、保存科学、保存処理

福岡 正太 准教授

- ① 民族音楽学・東南アジア研究
- ② 映像音響メディアとインドネシア音楽の変容
伝統芸能の伝承と映像記録
- ③ インドネシア(スندا)、東南アジア、映像音響メディア、民族音楽学

松尾 瑞穂 准教授

- ① 文化人類学・ジェンダー医療人類学・南アジア研究
- ② 近代化、開発がもたらすリプロダクション実践の変容に関する研究
サブスタンスと身体研究
子育ての比較文化論
- ③ リプロダクション(性と生殖)、ジェンダー、インド、サブスタンス、身体

吉田 憲司 教授 (国立民族学博物館長)

- ① 博物館人類学・アフリカ研究
- ② アフリカにおける造形と儀礼の人類学的研究
博物館・美術館における文化の表象のあり方の研究
- ③ アフリカ、ヨーロッパ、日本

出口 正之 教授 (2021年3月退任予定)

- ① 非営利組織の政策人類学的研究
- ② 公益法人その他の組織とフィランソपीの政策人類学的研究
- ③ フィランソピー、メセナ、非営利組織、NPO、公益法人、公益認定制度、ボランティア、言政学、政策人類学

寺村 裕史 准教授

- ① 情報考古学・文化情報学
- ② 情報考古学的手法を用いた文化資料のデジタル化と情報統合に関する研究
- ③ GIS(地理情報システム)、考古学、情報科学

廣瀬 浩二郎 准教授

- ① 日本宗教史・民俗学
- ② 障害者文化に関する人類学的研究
日本近代の新宗教に関する歴史的研究
- ③ 日本、東北、九州、京都、歴史、宗教、福祉、文化

ピーター J.マシウス 教授

- ① 先史学・民族植物学
- ② History of agriculture and plant domestication, with specific interests in taro (*Colocasia esculenta*), paper mulberry (*Broussonetia papyrifera*), and other plants used for food, fodder and fibre
- ③ Asia, Pacific, Mediterranean, ethnobotany, ethnobiology, plant domestication, food history

丸川 雄三 准教授

- ① 文化財情報発信・連想情報学
- ② 連想情報学に基づく文化財情報発信に関する研究
- ③ 文化財、連想検索、デジタルアーカイブ

博士後期課程 (Ph.D.)

課程修了の要件、学位取得までの流れ

学位取得の要件

学位を取得するためには、所定の3年限以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、所定の単位数以上を修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること（課程博士）が必要です。

学位取得までの流れ

1年次	1年生ゼミ出席
	現地調査準備
	調査計画書提出
2年次前期以降	現地調査
	調査報告、博士論文構想発表
3年次	必須履修単位取得
	博士論文草稿発表
3年次後期以降	課程博士出願
	論文公開発表会・口述試験
	最終試験・合否決定
	学位授与



研究支援

リサーチ・アシスタント (RA) 制度

教員の指示・監督の下で、研究者の補助として、研究活動に必要な様々な業務をおこなうながら給与を得ることができます。

学生派遣事業

学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこないます。

インターンシップ制度

深い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要経費を支援する制度です。

入学料・授業料免除等制度

経済的理由により入学料や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援として、入学料・授業料の免除（収納猶予・分納）の制度があります。授業料免除については、毎年2回、授業料免除申請の受付をおこなっています。授業料免除許可者は、半期の授業料の半額（267,900円）が免除されます。

特別講義

外部研究資金調達のための申請書の書き方、論文投稿のしかたなどをテーマにした特別講義をおこなっています。

日本学術振興会「特別研究員 (DC 2)」採用数

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
採用数	3	3	4	2	1	2	2	2	2	4	0	2

地域文化学専攻

ら じゃ ぶん
拉加本

中国のチベット・アムド地域にあるチベット人村落では、チベット仏教、ボン教、道教的な土着神や山の神に対する信仰が混交しています。私はその村の人々の生活と信仰がどのように関わっているのか、現地調査に基づき明らかにしようと考えています。

修士課程では、チベット仏教思想と文献学を専攻し、仏教古典に関する専門知識を学びました。しかし宗教的指導者と一般民衆の宗教に対する意識は必ずしも同じではありません。民衆の宗教実践は、僧院中心でおこなわれる教義重視の仏教的伝統とは異なっています。たとえば道教の影響を受けた土着神を祀り、アニミズムの性格が強い土地神信仰を強く維持しているのです。これらの背景にある伝統的民間行事や各宗派に関わる信仰の問題を解明するには文化人類学的アプローチが有効であると考え、私は2017年に入学しました。

近年、チベット語を知らない若者が増え、チベットの伝統的な教育を受けた僧侶も知識人も次第に減少しています。このような状況が続くと、チベット語を話す人は寺院の僧侶と田舎の農牧民に限られることになり、チベット語及びその文化は、専門家たちによる机上の研究対象としての存在になりかねないのではと危惧しています。私は、ネイティブアンソロポロジストとして、失われつつある伝統的民間行事などを再度復活させ、後世に継承させるためにも、歴史を視野に入れた人々の宗教実践の現状を実証する必要があると考えています。

総合研究大学院大学では、チベット関係の研究資料が多く保管され、チベットに関する文化人類学の方法を勉強するには理想的な環境が整っています。国立民族学博物館という多元的かつ国際的な研究環境の中で、チベット本土ではなしえない研究も達成されると確信しています。学術振興会特別研究員の助成金をもとに複数回にわたってフィールド調査を実施できたこと、海外学生派遣事業の助成で国内外の学会に参加し発表する機会を得ることもできました。また学内のリサーチアシスタントとしてこれまで知り得なかった他地域の収蔵資料と文献などを調べたことも、大変勉強になっています。



チベットの子供の剃髪儀礼
(ボンコル村5社、2018年)

比較文化学専攻

八木 風輝

私は中央アジアとモンゴルに住んでいるカザフ人の音楽と社会の関係を、「音楽文化の越境」というキーワードから研究しています。そのため、民族音楽学を専門とする先生に師事したいと思い、総研大（国立民族学博物館）に進学しました。私が修士課程で学んだ先生も、かつて総研大の出身だったことも入学理由として大きかったと思います。

中央アジアとモンゴルという海外のフィールドで毎年欠かさず調査することは、旅費といった調査費の負担が大きくなります。そのため、毎年のように調査のための助成金を獲得する必要がありますが、申請書を書くための技術や基礎知識がないと獲得が難しいです。

しかし、その獲得の可能性を上げるノウハウやサポートが、総研大にはあります。すなわち、学外の助成金を獲得する院生が大勢在籍していて、学外の助成金をとるためのコツみたいなものが蓄積されているのです。また、学外の助成金に申請するためには、あらかじめ予備的な調査が必要になることがありますが、この調査費用の一部を支援する学内の制度があります。

その他にも、調査した内容の発表や研究者と交流する場は、国内だけではなく国外にも開かれています。総研大がある国立民族学博物館には外国からの研究者が常時来館しており、希望すれば、研究にかかわる相談をすることも可能です。私は、東欧から来られた言語学の研究者との相談がきっかけとなり、調査地の音楽演奏の変容に関する共著の論文を出すことになりました。現在一緒に音楽の内容や旋律を分析しています。

学問を知り、世界に向けて研究を行いたいという方にとって、総研大は、興味の尽きない場所になるのではないかと思います。



カザフスタンの楽器を練習する
モンゴル国のカザフ人劇団員（2018年）

学位論文リスト

2006年度以降

【課程博士】

中国新疆オイラドの宗教復興に関する人類学的研究 —寺とオワール祭祀の復活に関わる転生活仏シャリワン・ゲゲン14世—	那木加甫(地域)	[2019.3.22 学術]
中国青海省におけるチベット仏教復興運動下の民間信仰の変容に関する人類学的研究 —同仁県ワッコル村を事例として—	喬旦加布(地域)	[2018.3.23 文学]
近代フィリピンにおける民族衣装をまとった聖母像の研究	古沢ゆりあ(比較)	[2017.9.28 文学]
自然資源の利用に関する環境人類学的研究 —ニカラグアの先住民による商業的ウミガメ漁の事例—	高木 仁(地域)	[2017.3.24 文学]
スナックにおける言語コミュニケーション研究 —対人関係を調節する接客言語ストラテジー—	中田 梓音(比較)	[2016.9.28 文学]
日本社会の自然葬に関する民族誌的研究 —NPO法人「葬送の自由をすすめる会」を中心に—	金セツビョル(地域)	[2016.3.24 文学]
都市回族コミュニティの維持と宗教実践 —中国陝西省西安市における回族の帰属意識をめぐる民族誌的研究—	今中 崇文(地域)	[2016.3.24 文学]
韓国の地域社会における華僑のアイデンティティに関する民族誌的研究 —韓国華僑ビジネスと華僑協会を中心に—	金 桂淵(地域)	[2015.9.28 文学]
「野球移民」を生みだす人びと —ドミニカ共和国におけるトランスナショナル移民研究—	窪田 暁(比較)	[2015.3.24 文学]
モンゴル遊牧民のモノの情報をめぐる交渉に関する民族誌	堀田あゆみ(地域)	[2015.3.24 学術]
中国雲南省における徳宏タイ族の即興うたと感性の民族誌的研究	伊藤 悟(地域)	[2014.9.29 文学]
My Huaca: The Use of Archaeological Heritage in Modern Peru from a Public-Archaeology Perspective	サウセド・セガミ・ダニエル・ダンテ(比較)	[2014.9.29 文学]
ナイジェリアの都市イレ・イフェにおける「アーティスト」の民族誌的研究	緒方しらべ(比較)	[2014.3.20 文学]
変化しつづける装い —中国雲南省文山モンの自己と他者をめぐる人類学的服飾研究—	宮脇 千絵(地域)	[2012.9.28 文学]
現代アンデス農村における聖人信仰の変容 —人の移動に焦点をあてて—	八木百合子(比較)	[2012.9.28 文学]
無文字社会における歴史記憶の生成と継承 —南エチオピア牧畜民ボラナにおける口承史の分析をととして—	大場 千景(地域)	[2012.3.23 文学]
カオダイ教ハノイ聖室の民族誌的研究 —ベトナム北部地域の都市における女性たちの社会関係—	伊藤まり子(地域)	[2012.3.23 文学]
周辺イスラームのダイナミズム —タイ南部村落におけるイスラーム復興運動と宗教実践の変容—	小河 久志(地域)	[2012.3.23 文学]
ヨーグルトをめぐる言説の生成と展開 —社会主義期からポスト社会主義期にかけてのブルガリアを中心に—	マリア・ヨトヴァ(比較)	[2011.9.30 文学]
オーストラリア先住民ヨルタ・ヨルタの環境管理のための先住民運動に関する文化人類学的研究	友永 雄吾(地域)	[2011.3.24 文学]
現代タイ社会における開発と僧侶 —僧侶による社会貢献とネットワーク形成に焦点をあてて—	岡部真由美(地域)	[2011.3.24 文学]
現代東南中国における宗親会の民族誌的研究 —国家との関係を中心として—	陳 夏晗(比較)	[2011.3.24 文学]
農業技術改善の民俗誌 —紀ノ川下流域村落の一七〜二〇世紀前半における動向の分析—	加藤 幸治(比較)	[2010.9.30 文学]
日本の先史時代における植物性食料の加工と利用 —残存デンプン分析法の理論と応用—	渋谷 綾子(比較)	[2010.3.24 文学]
韓国における老人の食 —老人福祉施設を中心に—	守屋亜記子(地域)	[2009.3.24 文学]
インド農村社会における不妊経験の人類学的研究	松尾 瑞穂(比較)	[2008.9.30 文学]

フェラインの民族誌 —ドイツ・バイエルン州のローカル・アソシエーション—	山田 香織(地域)	[2008.3.19 文学]
水上人と呼ばれる人々 —広東珠江デルタの漢族エスニシティとその変容—	長沼さやか(地域)	[2008.3.19 文学]
在米コリアンのサンフランシスコ日本町 —マルチカルチャーのエスニックタウン—	小谷 幸子(比較)	[2008.3.19 文学]
参加型開発を通じた女性の自己変容過程に関する人類学的研究 —北インド農村社会を事例として—	菅野美佐子(比較)	[2007.9.28 文学]
「場」と「パフォーマンス」に関する人類学的研究 —トルコ・都市におけるアレヴィーのセマーを例として—	米山 知子(比較)	[2007.9.28 文学]
上ビルマ村落における宗教とジェンダーに関する人類学的研究	飯國有佳子(地域)	[2007.3.23 文学]
「護り」の身体技法に関する映像人類学研究 —インドネシア・ミナンカバウの事例から—	村尾 静二(比較)	[2007.3.23 文学]
離散と故郷 —ヨルダンのパレスチナ系住民にみられる帰属意識とナショナリズム—	錦田 愛子(地域)	[2007.3.23 文学]
「子ども域」の文化人類学的研究 —バングラデシュ農村社会の子ども—	南出 和余(比較)	[2007.3.23 文学]

【論文博士】

グローバル化する互酬性 —サモア世界の儀礼財の循環と首長制—	山本 真鳥	[2017.3.24 文学]
ベトナムにおける市場経済化の進展と地域文化の生成 —東北地方のヌン・アン集団の事例から—	チュ・スワン・ザオ	[2015.9.28 文学]
アイヌ衣文化の研究	津田 命子	[2014.9.29 文学]
先住民生存捕鯨再考 —国際捕鯨委員会における議論とベクウェイ島の事例を中心に—	濱口 尚	[2013.9.27 文学]
多文化都市・新宿の生成と展開 —ライフサイクルの視座—	川村千鶴子	[2013.3.22 学術]
先史アンデス形成期の社会動態 —ペルー北部フンカパンバ川流域社会における社会成員の活動と戦略から—	山本 睦	[2012.9.28 文学]
小集落から見た初期国家の形成過程 —先スペイン期中央アンデスのワリ国家を事例として—	土井 正樹	[2012.3.23 文学]
スリランカにおけるエステート・タミルのアイデンティティと「ジャーティヤ」をめぐる人類学的研究	鈴木 晋介	[2011.3.24 文学]
活用される職祖伝承 —近・現代日本における木工挽物の担い手と木地屋「根元地」—	木村 裕樹	[2010.9.30 文学]
先住民学習の理論と実践—ポストコロニアル人類学の活用—	中山 京子	[2010.9.30 学術]
シャーマニズムによるエスニシティの探求 —ポスト社会主義期におけるモンゴル・ブリヤートの事例を中心として	島村 一平	[2010.3.24 文学]
国際線客室乗務員の接客業務と勤務体制 —仕事の人類学的研究—	八巻 恵子	[2009.9.30 文学]
「アイヌ風俗画」の研究 —近世北海道におけるアイヌと美術	新明 英仁	[2007.9.28 文学]

年度別学位授与者数

		'91~ '06年	'07年	'08年	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'16年	'17年	'18年	計
地域文化学専攻	課程博士	23	2	1	0	2	3	1	0	2	3	1	1	1	40
	論文博士	12	1	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	18
比較文化学専攻	課程博士	15	3	1	1	2	1	1	1	2	0	1	1	0	29
	論文博士	7	0	0	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	14
計		57	6	2	3	7	5	4	2	5	4	3	2	1	101

よくある質問

Q 学部をもつ大学院の教育と比べてどんな特徴がありますか？

A 教員数が学生数をうわまわるといって、他大学にはない恵まれた教育環境があげられます。教員：学生の比率はおおよそ3：2であり、個々の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また教員は各分野の第一線で活躍する研究者であり、最新の研究動向に基づいた指導をおこなえます。さらに、民博が所蔵する豊富な研究資料（図書67万冊、標本資料34万点、映像音響資料7万点など）の利用、館が主催する多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通し、国内外の研究者との交流ができます。

Q 地域文化学専攻と比較文化学専攻の二専攻には、どのような違いがありますか？

A 地域と比較に別れているものの、共にフィールドワークを研究の根幹にしているため、共通する部分も多く、密接な相互交流があります。また、専攻間に指導上の棲み分けはなく、院生がどちらに所属していても、両専攻の教員の指導を受けることができます。

Q 二専攻で学ぶことができるのは、文化人類学・民族学だけでしょうか？

A そんなことはありません。両専攻には、考古学、民俗学、宗教学、芸術学、言語学、音楽学、博物館学、保存科学など幅広い分野を専門とする教員がそろっていますから、それらの分野でも研究をおこなうことができます。また、教員の陣容は年度によって変化することがありますから、希望研究内容と当該専攻の教育体制との整合性について不明な点がある方は、前もってご相談ください。

Q 受験する前に希望する指導教員をかならず決めておく必要がありますか？

A 必要条件ではありませんが、強くお勧めします。また、受験を申請する前に希望指導教員に連絡を取れば、入学後の研究の見通しを立てる一助となるでしょう。

Q 学部や修士課程で文化人類学・民族学を専攻しなかったのですが、受験はできますか？

A 正規に文化人類学・民族学を学んだ経験がなくても受験はできます。しかし、入学後に志望研究が遂行可能であるか見通しをつけるためにも、関連図書などを精読し、少なくとも人類学やフィールドワークに関する基本的な考え方について理解しておくほうがよいでしょう。これは、何をするために当専攻を受験するのか整理するためにも役立つはずですよ。

Q できるだけ早く学位を取得したいのですが、3年で取得するのは難しいでしょうか？

A フィールドワークを研究の中心に据えている分野であるため、3年間で学位を取得するのは容易ではありません。早い取得が望ましいことは言うまでもありませんが、学問の進展に寄与できる質の高い研究成果を上げ、最終学位である博士号に相応しい研究能力を養うことがより重要であり、この点に留意した指導がおこなわれています。

Q 修士課程ですでに現地調査をはじめているのですが、入学後すぐに長期の現地調査をすることは可能ですか？

A 原則として、初年度は、長期フィールドワークをおこなうための準備期間にあてられています。フィールドワークは、単に現地に行けば遂行できるものではありません。また、修士課程でフィールドワークをすでにおこなっている場合でも、博士論文執筆のための調査では、求められる調査の質に大きな差があることが多いです。入学後の一年間は、教員の指導のもと、調査計画の実現性・妥当性などについて、それまでの自己の研究成果や先行研究との関連に留意しながら検討します。年度末には、フィールドワークに向けたリサーチプロポーザルに関する発表をおこない、計画をより実現性の高いものへと練っていきます。

▼ その他の質問はこちら

<http://www.minpaku.ac.jp/research/education/university/information/faq>



滋賀県立近代美術館 学芸員

近年、人文学においては隣接分野の研究動向にも目を配った学際的で横断領域的な研究の重要性が叫びます。私は、学部から修士課程まで美術史・芸術学の分野で学んできましたが、隣接する領域を含めてより広い視野から造形文化を論じるためには、美術史学の枠組みにとどまらず文化人類学的な観点や方法を取り入れることが有効であると考え、総合研究大学院大学の比較文化学専攻に入学しました。美術と関連して博物館学にも関心があったため、国立民族学博物館（民博）という基盤機関は魅力的でした。

私にとってここで学ぶ利点は、まず、博物館がある研究機関であることでした。民博に所蔵される膨大な標本資料のなかで参照したいものがあれば、展示場に展示中のものだけでなく、申請すれば収蔵庫の中の資料も閲覧できます。図書館の蔵書も充実しています。さらに、展覧会やイベントなど博物館の活動や先生方の実践を通してどのように研究成果が社会還元されているのかを目の当たりにして学ぶことができます。例

古沢ゆりあ (2017年9月学位取得)

例えば、大学院生も特別展の準備などをお手伝いさせていただく機会もあり、私は、2012年の「世界の織機と織物」展と、2014年の「イメージの力」展の準備に関わらせていただきました。また、様々なテーマで頻繁に開催される研究者同士の研究会や一般向けの講演会にも参加でき、文化人類学やその隣接分野での研究動向や最新の情報が常に耳に入ってくる環境です。

民博という場所柄、当然、先生方や学生には民族学・文化人類学を専門とする人が多いですが、それだけでなく博物館学、言語学、考古学など文化や歴史に関する様々な研究が行なわれています。総研大は、多様な背景をもつ人々と議論するなかで研究を深めることができる刺激に満ちた環境といえます。



中国社会科学院 助理研究員

私は今日のモンゴル族を構成する1つのエスニック集団であるオイラド・モンゴルを対象に研究しています。オイラド・モンゴルは現在、中国、モンゴル国、ロシア、キルギズ共和国などの各国に広く分布しています。博士課程在学中、私は中国の新疆ウイグル自治区を中心にオイラド・モンゴルの宗教復興について調査研究をしました。

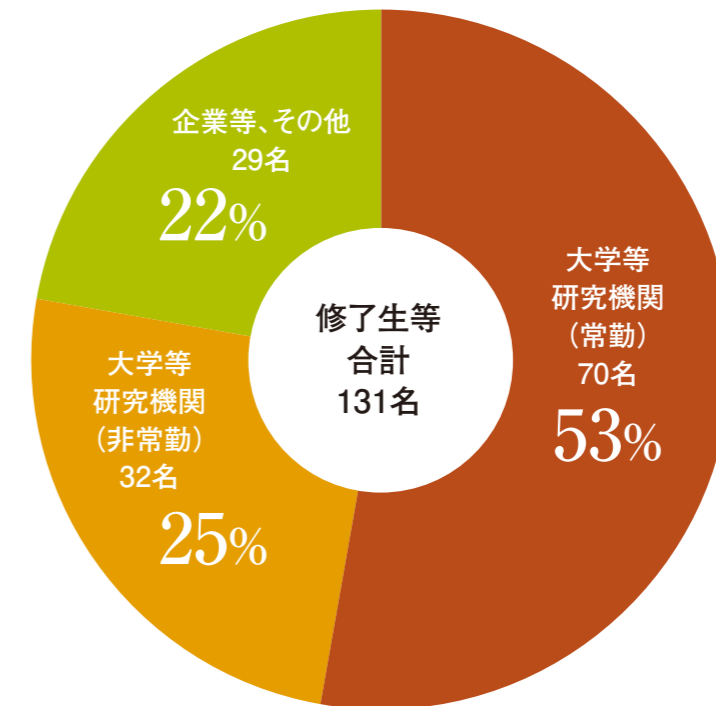
修士課程は名古屋大学東洋史専攻に在籍し、歴史学の視点と方法を用いてオイラド・モンゴルを研究していた私にとって、総研大・国立民族学博物館（民博）に在学した5年間は多くの新しいことを学ぶいい機会に恵まれた期間でもありました。総研大・民博では、博士課程における研究計画や中間報告、論文の構想などをゼミで発表し、多地域・多分野の研究者から意見やアドバイスをいただけます。それによって私自身も国境を越えて分布するオイラド・モンゴルの地域間比較をする必要性を感じ、ロシアやモンゴル国においても調査を行ない、オイラド・モンゴルを切り口に中央

ナムジャウ 那木加甫 (2019年3月学位取得)

アジアやモンゴル社会に関する理解が実に深まりました。また、人類学の基礎理論から、調査方法、調査支援制度への申請、学振の申請、雑誌論文への投稿にいたるまで手厚い指導をしていただきました。学生も多く、研究地域やテーマは異なりますが、同じく研究に専念している多くの仲間がいることは研究生活において大きな支えとなりました。これから総研大・民博に入学する後輩のみなさんにもぜひ総研大・民博の豊かな研究環境を活用してほしいです。



修了生等の進路 (2019年7月)



大学等研究機関(常勤)勤務先

愛知淑徳大学、インドネシア学術総局(インドネシア)、愛媛大学、大阪大学、鹿児島純心女子大学、神奈川大学、関西外国語大学、川崎医療福祉大学、神田外語大学、京都外国語大学、京都大学、京都文教大学、神戸市外国語大学、神戸大学、神戸山手大学、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、滋賀県立近代美術館、滋賀県立大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、四天王寺国際仏教大学、芝浦工業大学、上海師範大学(中国)、就実大学、女子栄養大学、成蹊大学、青海民族大学蔵学院(中国)、総合地球環境学研究所、ソウル大学(韓国)、大東文化大学、中京大学、中国社会科学院(中国)、中部大学、筑波大学、帝京大学、東京外国語大学、東京工業大学、東北学院大学、東洋大学、常葉大学、長崎純心大学、奈良県立大学、南山大学、日越大学(ベトナム)、日本赤十字九州国際看護大学、日本大学、人間文化研究機構、阪南大学、広島市立大学、宮崎公立大学、桃山学院大学、山形大学、ライデン大学(オランダ)、立命館大学、龍谷大学

■ 入学者選抜の基本的な考え方

第一次選抜（書類審査）では、修士論文または他の学術論文等について、独創性、研究史の把握、実証性、論理性の各項目に基づき評価します。また、研究内容（研究活動の概要、これまでに行った研究の要旨、これから志望する研究）については、計画の妥当性、計画の具体性、学問的意義、発展性の各項目に基づき評価します。

第二次選抜（面接審査）では、これまでに行った研究、修士論文等の内容、これから志望する研究に関する口頭試問を通し、討論能力、語学力、研究意欲等を評価します。

書類審査、面接審査の各項目を総合的に判断し、合否を判定します。

■ 求める学生像

【地域文化学専攻】

世界の多様な地域社会や地域文化について広い関心を持ち、とりわけ文化人類学・民族学の基礎研究に強い意欲をもって、在学中の研究活動を遂行することができる学生。

【比較文化学専攻】

人間の社会や文化について広い関心を抱き、とりわけ学問的な理論化やその社会的な応用に強い意欲をもって、在学中の研究活動を遂行することができる学生。



■ 募集人数

専攻	課程の種類	講座（分野）	募集人員
地域文化学専攻	博士課程の後期 3年の課程	アジア地域文化Ⅰ、アジア地域文化Ⅱ、ヨーロッパ地域文化、アフリカ地域文化、アメリカ地域文化、オセアニア地域文化	3人
比較文化学専攻		比較社会研究、比較宗教研究、比較技術研究、比較言語研究、比較芸術研究、文化資源研究	3人

■ 入学者選抜日程

出願資格認定審査 修士または専門職学位に相当する学力のある方は、事前に出願資格認定審査を行います	2019年11月1日（金） ～2019年11月7日（木）
入学願書受付期間	2019年11月22日（金） ～2019年11月28日（木）
第一次選抜（書類選考）・結果通知	2020年1月中旬
第二次選抜（面接審査）	2020年1月27日（月） ※予備日1月28日（火）
合格発表	2月中旬
入学手続き	2020年3月9日（月） ～2020年3月13日（金）

▼ 出願書類および出願までの流れ等についてはこちら

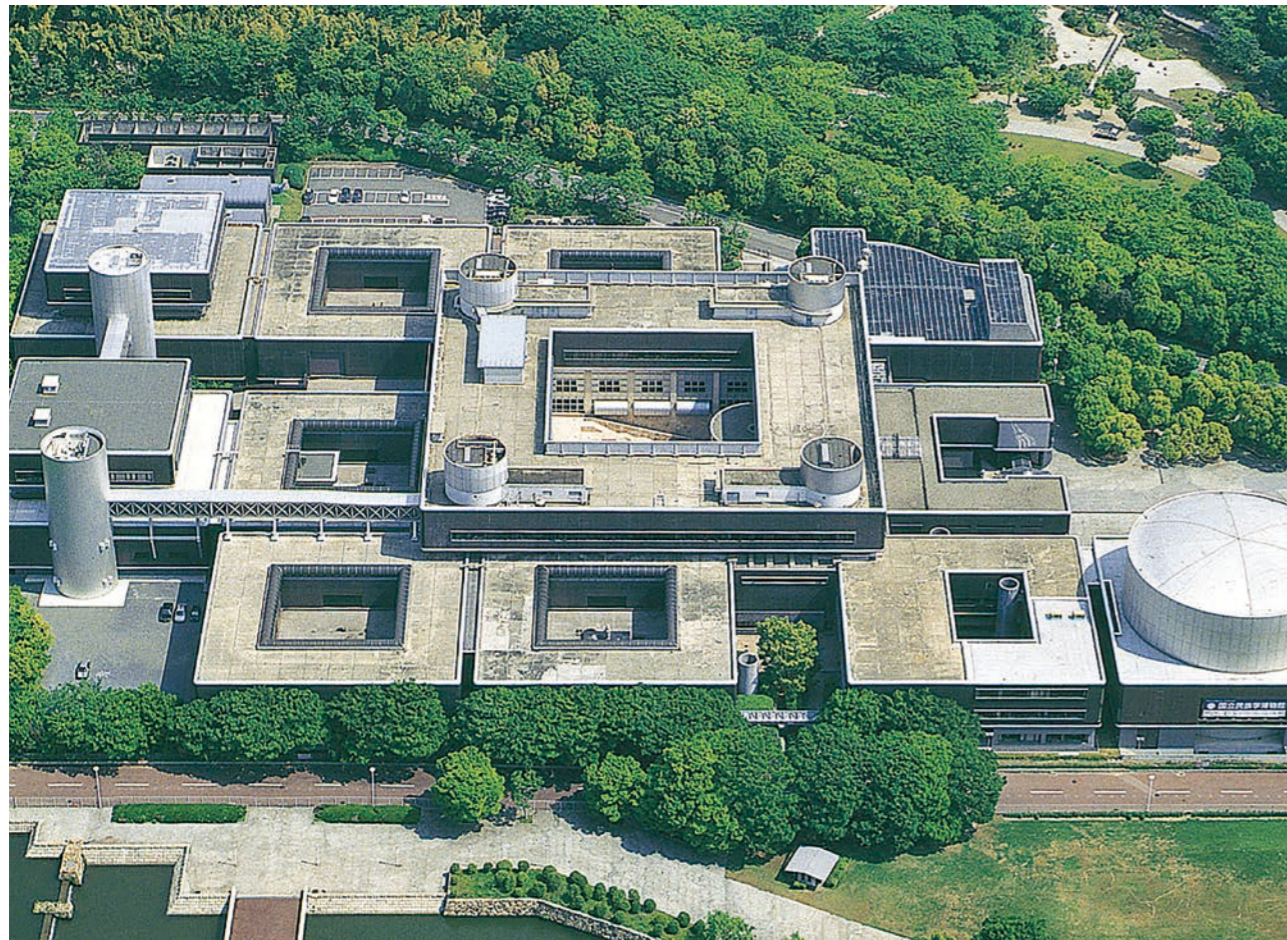
<http://www.minpaku.ac.jp/research/education/university/information/steps>



国立民族学博物館の概要

国立民族学博物館（みんぱく）は、わが国における文化人類学・民族学の研究センターとして、世界の諸民族の社会や文化に関する調査研究をおこなうとともに、異なる文化についての人びとの理解を深めることを目的として、1974年に設立されました。みんぱくは、大学共同利用機関であり、全国の大学・研究機関との連携のもとに調査研究や共同研究を進めるとともに、学術情報を集積しています。その成果を博物館の展示やデータベースの提供などを通じて広く社会に公開することも使命としています。

みんぱくは「博物館機能をそなえた研究所」として、世界的にみても類例のない規模と機能を有しています。博物館そのものをとっても、すでに世界最大級の民族学博物館に数えられるようになっています。みんぱくの展示は、常設展示と特別展示と企画展示とで構成されており、常設展示は、世界をオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、それに日本を含むアジア各地に分けた地域展示と、言語や音楽などの通文化展示からなっています。一方、特別展示と企画展示は、特定のテーマのもとに、年に数回、期間を限って開催されます。



所蔵民族学資料 (2019年3月31日現在)

【標本資料】

海外資料	179,127点
国内資料	165,838点
計	344,965点

【映像音響資料】

映像資料	8,223点
音響資料	62,651点
計	70,874点

【文献図書資料】

日本語図書	266,112冊
外国語図書	412,158冊
計	678,270冊
日本語雑誌	10,143種
外国語雑誌	7,028種
計	17,171種



みんぱくアクセス



●大阪・万博記念公園内

○大阪モノレール…「万博記念公園駅」または「公園東口駅」下車徒歩約15分

○バス…阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

○乗用車…万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約5分

「日本庭園前駐車場」を利用される方は、「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※自然文化園(有料区域)を通行するには、同園入場料が必要です。

※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[お問い合わせ]

国立民族学博物館 管理部研究協力課研究協力係 (大学院担当)

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

電話 06-6878-8236 (大学院担当)

FAX 06-6878-8479

E-mail souken@minpaku.ac.jp

URL <http://www.minpaku.ac.jp/>

<http://www.minpaku.ac.jp/research/education/university>

